

科目名	水族館研究 I 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	佐藤充
学科・コース	エココミュニケーション科2年制	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	北里大学水産学部卒業 (株)淡島マリンパーク元館長 Wonder Labo代表						
授業の学習 内容	水族館の飼育者を目指す為には飼育の基本となる「新飼育ハンドブック」の内容を把握する必要があるため、これを中心に授業を行います。飼育ハンドブックの内容は読んだだけでは解りにくいため、深く理解できるよう映像など含め授業を進めていきます。授業は座学が中心ですが、実際に濾過槽などの機材を使用したり、水族館の見学を行ったりしてハンドブックの内容を体験も含め学習します。						
到達目標	魚類飼育全般の基礎知識を理解することが出来る。 海獣飼育全般の基礎知識を理解することが出来る。						
評価方法と基準	小試験20% 定期試験80% 筆記試験評価:GPA (S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	水族館・動物園の歴史を遡る。なぜ動物園・水族館が生まれたのか、そのルーツを正しく理解できる。	
2	講義	水族館概論 現在の動物園・水族館の役割がどのように変わってきているのか理解できる。	新飼育ハンドブック3 P1~P32の熟読と理解
3	講義	餌料 餌料の大切さと工夫を理解できる。	新飼育ハンドブック1 P61~P90の熟読と理解
4	講義	繁殖 魚類だけでなく海獣の人工繁殖など水族館で取り組んでいる活動を理解できる。	新飼育ハンドブック1 P1~P60の熟読と理解
5	講義	危機管理	新飼育ハンドブック5 P1~P83、の熟読と理解
6	講義	トレーニング	新飼育ハンドブック5 P113~P139136の熟読と理解
7	講義	展示1 水族館における展示の意味と効果について理解できる。	新飼育ハンドブック4 P1~P90の熟読と理解
8	見学	水族館の見学を通し、展示にどのような工夫がされていて、どのような効果があるのか説明できる	見学を持って充当する(葛西かサンシャイン)
9	見学		
10	演習	展示2 見学を通し明確になった展示の目的の再確認と、その他の展示の意味を説明できる。	プレゼンテーション
11	講義	ダイビング実習	5/31~
12	講義	教育 動物園・水族館の教育活動について具体的活動を元に説明・理解できる。	新飼育ハンドブック4 P91~P150の熟読と理解
13	講義	前期まとめ 前期の授業を再確認し、不明な点、疑問点を洗い出し、より深い理解ができる。	
14	講義・試験	テスト対策・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15	講義	テスト結果の振り返りを行うことで、動物園水族館の役割をより深く理解する	前期に取り扱った新飼育ハンドブック全般
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	
【使用教科書・教材・参考書】			
新飼育ハンドブック ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。			

科目名	動物園研究 I 1	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	森由民
学科・コース	エココミュニケーション科2年制	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	動物園ライター、ヒトと動物の関係学会評議員						
授業の学習 内容	動物園スタッフを志望する者に対して、歴史的な視点と展示論を重視しつつ、自覚的な動物園人としてのライフワークの基礎となる動物園原論を講じる。						
到達目標	西欧近代に生まれ、日本にも導入された動物園のありようを歴史的に理解することで、現在、国際的に焦点化している動物福祉の問題等、実際のリアルタイムの課題への思考も可能となる素養を身に着ける。 動物園を他の動物飼育施設と峻別する、市民への展示の意義を理解し、将来の動物園人としての現場で適切な言動をし、園の展開を主体的に支える基礎能力を養う。 ※前期は特にヨーロッパに生まれた近代動物園の基本要件、そこでの動物分類学や生態学の地位、アメリカでの動物園の展開を重要なトピックとして扱う。						
評価方法と基準	各期末に、指定されたテキストに基づく穴埋め型の試験を行うとともに、同じく指定した内容でのレポートの提出を課し、そこでの論述力の評価を行っていく(前期は飼育員を志望する動機を論述と言えるレベルまで精錬する)。 ※詳細は講義内で解説する。なお、レポートの提出や追加資料の提示などにはTeamsを活用するので、早期の習熟を心がけていただきたい。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	イントロダクション	次回に向けて、テキストとして指定した本田公夫の論文を読み進めること。
2		講義	動物園はどこから来たのか_古代編	同上
3		講義	動物園はどこから来たのか_近代に向けて	同上
4		講義	近代動物園の誕生=オーストリアからパリへ	以降、講義内で紹介するインターネット資料(動画等)の復習を推奨する。
5		講義	近代動物園の展開_ヨーロッパ_1=大英帝国とロンドン動物園	同上
6		講義	近代動物園の展開_ヨーロッパ_2=パノラマ展示の誕生	同上
7		講義	近代動物園の展開_ヨーロッパ_3=分類学から生態学へ	同上
8		講義	近代動物園の展開_ヨーロッパ_4=第二次世界大戦から現在へ	同上
9		個別指導	課題レポート完成のための質疑応答・指導	指導をもとに課題レポートの完成を目指す
10		講義	近代動物園の展開_アメリカ_1=ウィルタネスとジオラマ展示	本田論文・インターネット資料の参照
11		講義	近代動物園の展開_アメリカ_2=ランドスケープ・イマージョンと環境エンリッチメント	同上
12		講義	前期のまとめ	同上
13		質疑応答	考査に向けての質疑応答	本田論文による考査準備
14		考査	考査	振り返りを期して、各自復習
15		振り返り	振り返り・後期に向けて	後期に向けての準備開始
準備学習 時間外学習		特に本田論文について。予習=不明点の確認。復習当該の講義内容との関連付け。		
【使用教科書・教材・参考書】				
<p>初回に下記のテキストを配布する。</p> <p>1.本田公夫(2014)「動物園の展示学」村田浩一ほか編『動物園学入門』朝倉書店 また、下記テキストも講義の基礎とする。</p> <p>本田公夫(2020)「展示とエンリッチメント」日本動物園水族館協会『改訂版 新・飼育ハンドブック 動物園編5』 ※その他、以下の参照を推奨する。</p> <p>3.sirokumao(2021)『クマが肥満で悩んでいます 動物園のヒミツ教えます』角川書店 森由民(2010)『動物園のひみつ』PHP研究所(校内図書室に寄贈済み)</p>				

科目名	ナチュラリストガイド I 1	必修 選択	必修・選択必 修・選択等	年次	2	担当教員
学科・コース	エココミュニケーション科2年制	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	()	
教員の略歴	ケニア・プロサファリガイド / アフリカ野生生物管理大学 / 青年海外協力隊、環境教育活動					
授業の学習 内容	環境、観察、観光の3つのキーワードを用いて、アフリカのサバンナや中年米の熱帯雨林など、実際に講師が観察した経験と画像をもとに、熱帯区の動物の野生での行動と、環境のつながりを学ぶ。哺乳類だけでなく鳥類、両生・爬虫類、昆虫、植物も網羅し、生態学を理解する。各地の保護の現状を学ぶ。					
到達目標	世界中の自然観察の魅力を知り、海外に目を向ける。 生態学、地質学、生物多様性を学び、それらの知識を活かしたネイチャーガイド業務の育成。 実際に自然保護区へ訪問するための具体的な方法やコツの習得。 海外で働くことも前提として、英語ガイドブックの翻訳など必要とされる英語力を身につける。					
評価方法と基準	理解力確認のためのミニ・テスト。 「プレゼンテーション」授業と合わせてグループ発表や個人発表をおこない、聴講者による評価をおこなう。 ミニテスト(20%)、課題提出(20%)、発表(40%)、授業参加態度(20%)					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	座学	授業内容の説明とサバンナの定義 ケニア・マサイマラ国立保護区を把握する	各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する
2	4月26日	座学	草原地帯の生態系と観察方法 チーター、レイヨウ、走鳥類など	各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する
3	5月10日	座学	低木地帯の生態系と観察方法 ライオン、イボイノシシ、昆虫など	各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する
4	5月17日	座学	アカシア疎開林の生態系と観察方法 キリン、ジャッカル、猛禽類など	各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する
5	5月31日	座学	崖、岩場の生態系と観察方法 ヒヒ、ハイラックス、爬虫類など	各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する
6	6月7日	座学	湿原の生態系と観察方法 ゾウ、スイギュウ、サーバルなど	各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する
7	6月14日	座学	川沿林、水辺の生態系と観察方法 カバ、フニ、水鳥など	各自、ガイドブックやインターネットを利用して授業内容にかかわる動植物を調査する
8	6月18日	実習	課外実習(ズーラシア)	飼育環境下の野生動物を観察し記録する
9	6月28日	座学	実習の振り返り、発表する ネイチャーガイドの仕事について学ぶ	他のグループの発表を評価する
10	7月5日	座学	ケニアにおける保護の現状と、 観光の両立について考える	授業を振り返り、感想を述べる
11	7月12日	座学	アフリカにおける保護の現状 象牙を巡る国際社会の問題を考える	授業を振り返り、感想を述べる
12	7月19日	座学	中間テスト、バーチャルサファリガイドをおこ ない、ガイド力を身につける	評価表を用いて、参加者は発表者の 評価採点をおこなう。
13	8月30日	座学	熱帯雨林の定義 アフリカの熱帯雨林の自然観察方法	各自、ガイドブックやインターネットを利用し て授業内容にかかわる動植物を調査する
14	9月6日	座学	アフリカの熱帯雨林と 青年海外協力隊について学ぶ	各自、ガイドブックやインターネットを利用し て授業内容にかかわる動植物を調査する
15	9月13日	座学	前期授業の振り返り	授業の評価と感想を述べる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ドッグトレーニングⅡ1	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	安齋 裕己
学科・コース	エココミュニケーション科2年制	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	1989年 Dog Training Club PURE GOLD 開業 元埼玉県警嘱託警察犬訓練士						
授業の学習 内容	犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを 理解する授業です。 身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。						
到達目標	犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることができる。 期及び、就職に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。						
評価方法と基準	・ 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	担当犬の理解 稟性と性格	学校飼育犬及び、担当犬の管理
2		講義・演習	JKC 家庭犬訓練試験の規定を理解する	学校飼育犬及び、担当犬の管理
3		講義・演習	招呼の確実性を高める	学校飼育犬及び、担当犬の管理
4		講義・演習	喜求的招呼を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
5		講義・演習	脚側行進の基礎を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
6		講義・演習	停座及び招呼を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
7		講義・演習	伏臥・立止を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
8		講義・演習	ハウスを教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
9		講義・演習	脚側行進の応用を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
10		講義・演習	脚側行進の応用を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
11		講義・演習	行進 及び停座を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
12		講義・演習	行進中の停座・伏臥を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
13		講義・演習	遠隔の基本姿勢を教えることができる	学校飼育犬及び、担当犬の管理
14		講義・試験	試験 (筆記試験)	学校飼育犬及び、担当犬の管理
15		講義・演習	前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解 を深める	学校飼育犬及び、担当犬の管理
準備学習 時間外学習			学校飼育犬の飼育当番及び観察で充当	
【使用教科書・教材・参考書】 犬具一式 ・ 筆記用具 ・ トレーニング日誌				

科目名	ビューティー&キャット演習 I 1	必修 選択	必修・選択必修・ 選択等	年次	2	担当教員	江本
学科・コース	エココミュニケーション科2年制	授業 形態	講義・演習・実習 等	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	ペットサロン勤務						
授業の学習 内容	トリミング業界で行われているサービスを勉強します 日々進化する業界の流れについていき、新たな知識や技術を習得するための力をつけます						
到達目標	1)就職後活躍していくための知識、技術を習得する 2)新しいもの・事を考え、生み出す力をつける 3)ウィッグのデザインを考え、ブラッシングを終了する						
評価方法と基準	1)定期テスト50% 2)ウィッグのデザイン画提出30% 3)ウィッグのブラッシング20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義	ペット業界におけるエステ・サービスを学習する	配布した資料を熟読する
2	4月26日	講義+演習	フォトジェニックの背景の作り方・撮影方法を学ぶ	背景を使用し犬(ウィッグも可)と撮影
3	5月10日	演習	デザインカット案の記入方法を学習する ウィッグのブラッシング方法を学習する	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
4	5月17日	講義	パックの種類や方法を学習する	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
5	5月31日	講義実習	ハーブパックの手順を理解する	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
6	6月7日	講義実習	シルクの泡パックの手順を理解する	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
7	6月14日	講義実習	犬にデザインカットを行っているところを見て 実際にカットできるデザインを考える	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
8	6月21日	講義実習	アロマバスの手順を理解する	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
9	6月28日	講義実習	シセルリノの手順を理解する	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
10	7月5日	講義実習	保湿浴、すすかないシャンプーの 方法を学習する	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
11	7月12日	講義実習	ポイント(耳・尾)のカラーリング方法を学ぶ	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
12	7月19日	講義実習	ボディ(モチーフ)のカラーリング方法を学ぶ	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
13	8月30日	演習	デザイン画記入を实践する	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
14	9月6日	試験	筆記試験の実施・ウィッグ、デザイン画提出	ウィッグのブラッシング デザイン画記入
15	9月13日	講義	試験返却、ウィッグのカットを行う	ウィッグのカット
準備学習 時間外学習			予習・復習 ウィッグ準備 等	
【使用教科書・教材・参考書】				
筆記用具、演習着(演習・講義実習時)、トリミング道具、ウィッグ等				

科目名	エキゾチックアニマルⅡ2	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	高橋幸子
学科・コース	エココミュニケーション科2年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	45 1		
教員の略歴	日本初のドッグシッター&イヌの託児施設を発案、開業 小動物全般の繁殖・卸し						
授業の学習 内容	<p>飼育展示、販売、接客に必要な不可欠となる小動物の基本を学ぶ授業の後編です。 種を理解する事で、品種や繁殖、人工哺乳や介護をする為の知識を身に付けます。 飼育される全ての動物たちが、生涯ストレスなく健康で暮らし続けられるために、飼い主様とのパイプラインを目指して学習に励んで下さい。 授業は座学ですが、実際に動物に触れ合い、感覚も養いながら授業を進めます。</p> <p>※実際に生き物を使用する授業のため、内容に変更がある場合があります。</p>						
到達目標	より良い空間作りを目指して、考える事が出来るようになる。						
評価方法と基準	<p>提出物20% 小テスト20% 定期試験60% 筆記試験評価: GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0)</p>						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	モルモットの復習	モルモットの品種について復習しておく
2		講義・演習	モルモットのケージと用品	モルモットの用品について調べておく
3		講義	ネズミ亜目/レミング	レミングの逸話について調べてみる
4		演習	食性ゲーム	
5		講義	犬	身近にどんな犬が暮らしているか調べておく
6		講義・演習	犬種	身近で何犬種と出会えるか調べてみる
7		講義	学習理論	
8		講義	立ち位置と圧	
9		講義	ハムスターとジャービルの行動	ハムスターとジャービルの見た目の違いを考えてみる
10		講義・演習	ハムスターやジャービルのケージと用品	
11		講義・演習	採食と知育玩具	身近で見られる動物の暮らしを観察してみる
12		講義	環境エンリッチメント	
13		講義	総まとめ	
14		試験	試験	
15		講義	試験の解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				